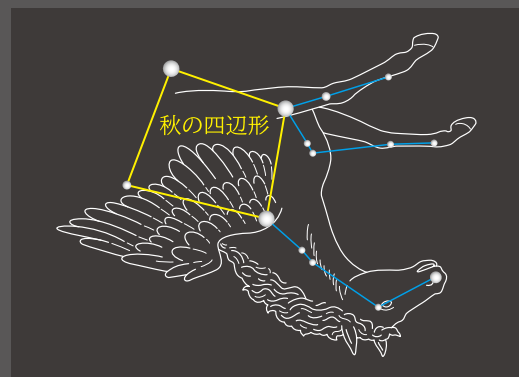




ペガサス座

秋の宵、頭上あたりに明るさのそろった四つの星が真四角につくる大きな四辺形が「秋の四辺形」です。秋の星空は淡く、見つけにくい星座が多いため、この四辺形の各辺をあちこちに延長することで、「みなみのうお座」や「くじら座」をはじめとする他の星や星座の位置を見つけやすくする大変便利な指標になってくれます。日本ではその四角い形から「枳形星（ますがたばし）」とよぶ地方もありました。

ギリシャ神話に登場するペガサスは、雪のように白く銀色の翼をもつ美しい天馬です。勇敢な若者ペレロフォンはこのペガサスにまたがり、首がライオン、体が山羊、尾が蛇という火を吐く怪物キメーラを見事に退治しました。ところが、自らの武勇におごったペレロフォンはペガサスに乗って天界へ昇ろうとします。これに驚いた大神ゼウスが一匹のアブを放ち、ペガサスの脇腹を刺させます。これに驚いたペガサスは暴れ、ペレロフォンを地上へ振り落とし、そのまま天に駆けのぼって星座になったといわれています。

天体としては、ペガサスの鼻先にある球状星団M15 が双眼鏡でぼんやりとした姿で見ることができます。またペガサス座 51 番星は、太陽系以外の恒星で初めて惑星がまわっていることが確認された歴史的な星として知られています。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

令和 8 年天文講演会のお知らせ

「世界最大級！
野辺山 45m宇宙電波望遠鏡で見た宇宙」

講師：西村淳 氏

10/18 日 14:00 ~ 15:30

会場：五島協働センター 1F ホール

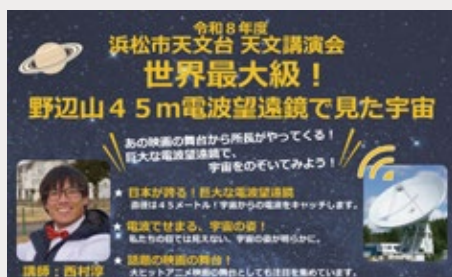
対象：小学生以上

定員：先着 50 組（約 100 人）

参加費：無料

申込み：受付中

天文台ウェブサイトまたは申込みフォーム二次元コードから



西村淳 氏

野辺山宇宙電波観測所所長。ゲームやコンピュータに熱中した少年時代を経て、大学でたまたま天文学と出会う。仲間と作り上げた装置で、観測に初めて成功する「ファーストライト」に魅了され、様々な望遠鏡のプロジェクトに参加。

現在は野辺山宇宙電波観測所の所長を務めながら、45m 電波望遠鏡に載せる受信機の開発や、天の川の分子雲の観測、電波天文学の講演会に情熱を注ぐ。

星空クイズ

秋の目印「秋の四辺形」を形作る、4 つの星のうち 3 つはペガサス座の星です。残りの 1 つはお姫様の星座の星です。何座でしょう？

- A アンドロメダ座
- B みずがめ座
- C くじら座

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2026 年 10 月

上旬 21 時ごろ

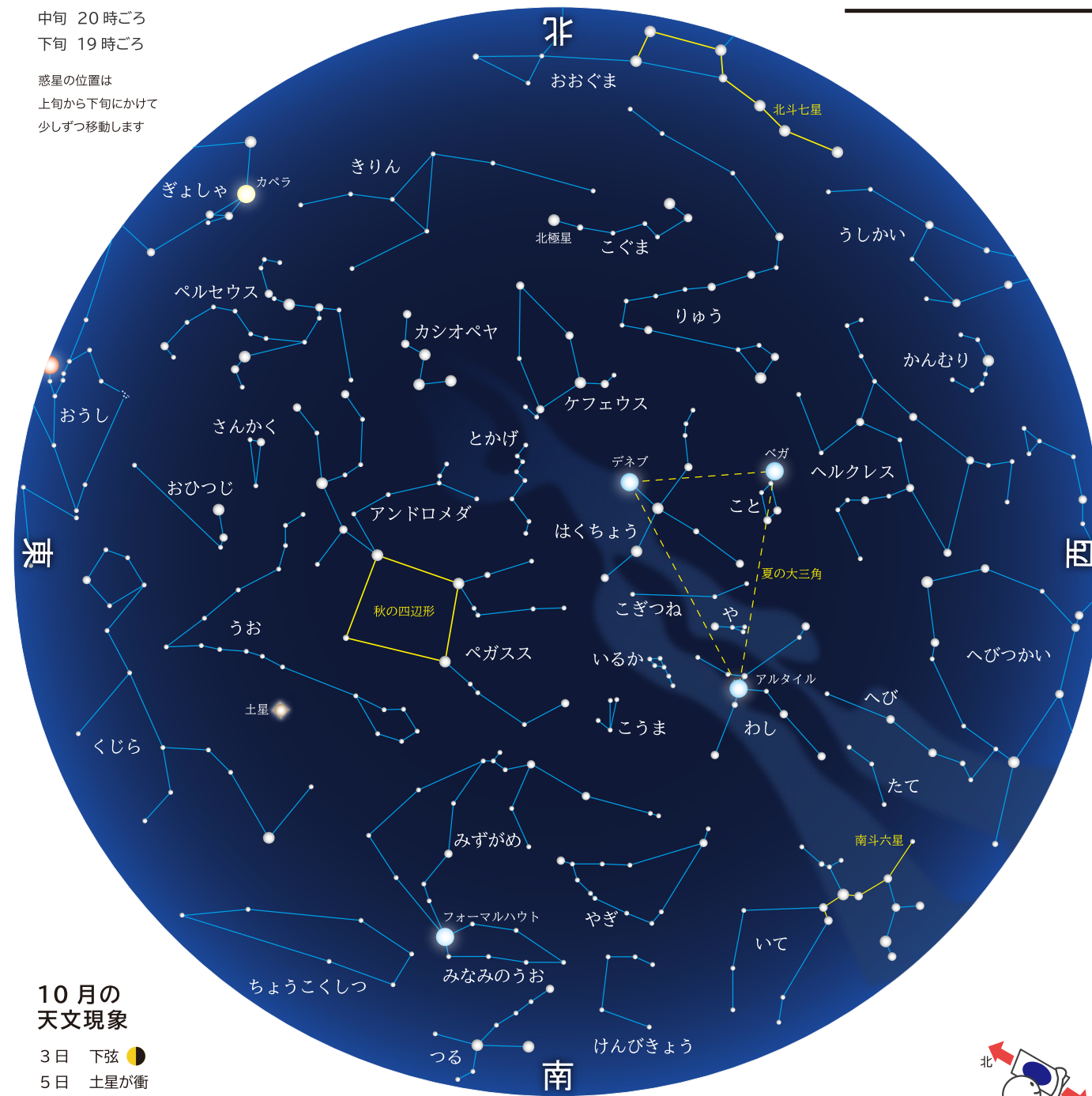
中旬 20 時ごろ

下旬 19 時ごろ

惑星の位置は

上旬から下旬にかけて

少しずつ移動します



10 月の天文現象

- 3 日 下弦 ☾
- 5 日 土星が衝
- 8 日 【寒露】太陽黄経 195°
- 11 日 新月 ☾
- 19 日 上弦 ☽
- 20 日 【秋の土用の入り】太陽黄経 207°
- 23 日 【霜降】太陽黄経 210°
- 26 日 満月 ☽

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。



秋風が心地よく、空気が澄み渡る 10 月。この時期の夜空には「秋の四辺形」が大きく広がり、秋の星座たちが勢ぞろいします。さらに街明かりから少し離れると、私たちの銀河の隣にある「アンドロメダ銀河」がぼんやりと見えることも。肌寒くなる前の澄んだ秋夜、少し暖かい格好をして宇宙の広がりを感じてみませんか？





浜松市天文台

イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。



ウェブサイトをこちら



10/3・10・17
24・31

土

NG

星空観望会

宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座・星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付(30分ごとと先着20組)

10/4

日

NG

太陽・昼間の星 観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00

会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。

10/4

日

OK

天文工作教室～万華鏡を作ろう～

天文工作や星に関するお話をします。
工作と星を楽しみましょう。

時間 18:30～19:30

会場 2F 講教室 / 天文台屋上

申し込み 9/23 (水) 13時から受付
(先着 20 組)

10/18

日

OK

天文講演会

「世界最大級!野辺山 45m電波望遠鏡で見た宇宙」
野辺山宇宙電波観測所 所長 西村淳氏による講演会です。

時間 14:00～15:30

会場 1F ホール

対象 小学生以上

申し込み 受付中 (先着 50 組)

10/23

金

NG

十三夜観望会 (スマホ de ムーン)

お月見をしましょう。
スマホのカメラで月の撮影にも挑戦しましょう。

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 10/14 (水) 13時から受付
(30分ごとと先着 20 組)

10/30

金

OK

親子天文教室～秋の星座～

小学生親子向けのお話と観望がセットになっています。
(園児のきょうだいも参加可) 雨天でも工作を楽しめます。

時間 18:30～20:00

会場 2F 講教室 / 天文台屋上

申し込み 10/21 (水) 13時から受付
(先着 20 組)

裏面のクイズの答え：正解は A (四辺形の北東の星「アルフェラッツ」は、アンドロメダ座の星です)

星空を楽しむ

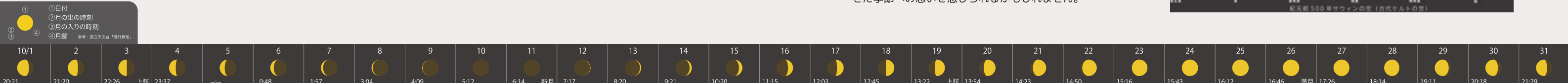
スマホ × 望遠鏡 × 月

文・浜松市天文台事業協力者の会 瀬戸佳二

私の星空の楽しみは望遠鏡で見える月をスマホで撮影をすることです。望遠鏡を通して見た月はクレーター（月のデコボコ）が楽しめます。三日月の頃や、「上弦の月」といわれる半月の頃、もしくは満月より数日前。このときの月はクレーターの観察が可能で、月のデコボコが見える写真を撮ることができます。

撮影方法はかんたんです。望遠鏡を覗くときに使う接眼レンズにスマホのカメラレンズを合わせて撮影するだけです。「コリメート撮影」と呼ばれる撮影方法です。撮影はまかせていただければ大丈夫です。スマホで撮影した画像は拡大して見ることができるので撮影した月をじっくり観察できますよ。

喜んで頂けることが多く私自身開催の観望会でも楽しみながらご案内をしています。浜松市天文台では「スマホ de ムーン」に参加で望遠鏡を通した月の撮影ができますよ。スマホのコレクションに月のアルバムを追加して一緒に楽しみましょう。



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」をお楽しみいただけます。

ブログはこちら



プラネタリウム

月がきれいな夜に話したい3つのこと

お月見の時期に、月にまつわるお話をご紹介します。

平日 14:20～15:15

土日祝 13:00～13:55
15:40～16:35

星空マルシェ

～解説員による星空解説、宇宙の話～

平日 15:40～16:20

土日祝・長期休暇期間 10:30～11:10

キッズプラネタリウム

るんやのおひしき

～おもしろい～

平日 11:30～12:05
14:20～14:55

土日祝 11:30～12:05
14:20～14:55

夜の科学館 特別放映

天体の運動について

10月24日(土)18:00～18:40
19:00～19:40

ハロウィンナイトに輝く星

column

文 / 浜松科学館 天文チーム 長嶋理子

10月といったらハロウィンシーズンですね。特にここ数年では、日本でも色んな飾り付けが見られたり、お菓子を配ったり、仮装を楽しんだりする姿がよく見られるようになりました。今では賑やかなお祭りとして定着したハロウィンですが、実はもともと、夜空の星を目印にして訪れを知る「季節の大きな節目」のお祭りだったんです。

ハロウィンの起源となったのは、古代ケルトの人々が行っていた「サウィン」というお祭りです。サウィンが行われていたのは、ちょうど現代のハロウィンと同じ10月31日頃でした。当時は現代のようなカレンダーはありませんから、星の動きを見てサウィンの時期を見定めていたと考えられています。この時、基準となっていた星の一つがすばる（プレアデス星団）だったと言われています。彼らの住む地域ではサウィンの時期になると日没後、あたりが暗くなると東の空にすばるが見え始めます。(図参照) そのため、これを目印にサウィンの時期を知っていたとされています。さらに古代ケルトの人々は、すばるが南の空高く昇る真夜中になると、生者の世界と死者の世界の境界線がもっとも薄くなり、二つの世界を隔てる扉が開くと信じていました。そして、その開いた扉から悪霊たちがやってくると考えていたのです。

そんなサウィンは彼らにとって、非常に特別な日でした。というのも、この日は彼らにとって1年の切り替わりの日（大晦日と元旦）でもあったからです。10月31日あたりは、秋分から冬至へと向かう「季節のおおよそ中間」の時期にあたります。日本の「立冬」にも近いこの節目は、天文学や暦の世界で季節の四半期の真ん中を指す「クロス・クォーター・デイ」の1つとされています。

古代ケルトの考え方では、サウィンの日の昼間までが「夏（光の季節）」、そして日没後からは「冬（闇の季節）」に切り替わるとされていました。そして、この「夏の終わり」こそが、彼らにとっての新しい1年の始まりでもあったのです。

この特別な日に、悪霊から身を守るために行った「仮装」や、魔除けのために灯した「カブの提灯」、精霊へのなだめとして渡した「お供え物」といった風習が、のちにキリスト教の行事と結びつき、かぼちゃの提灯やトリックオアトリートの文化といった、現代のハロウィンへと受け継がれていきました。

今年のハロウィンの夜は、ぜひ夜空も見上げてみてください。頭上で静かに輝く「すばる」の光の向こうに、遥か昔の人々が寄せた季節への思いを感じられるかもしれません。

